

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401517		
法人名	有限会社 さくらの里		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3135-15		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 5	評価結果市町村受理日	平成28年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4271401517-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4271401517-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 8 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① おいしい食事の提供。 ②清潔な生活空間の提供。 ③一日に一度は入居者様に笑っていただく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前ペンションだった当ホームは周りを木々に囲まれ、普賢岳を望む静かな立地にある。「全ては利用者のために」という理念を掲げ、入居者の「終のすみか」として清潔な環境で生活して頂く為、毎日の掃除や月に1~2回ローテーションで大掃除を実施する等の支援に取り組んでいる。新人職員用研修(ベテラン職員と共同したケアの実施)・内部研修・全体会議を活用して、職員全体のレベルアップに取り組んでいる。またヒヤリハットの改善にも取り組み、気づいた事は付箋に書き留め、1ヶ月分をボードに貼り、全職員で対応を話し合いミスを減らすよう努める等、職員の意見を積極的に取り入れ、入居者に質の高い介護の提供を目指す姿勢が窺えた。家族とホームとの関係性であるが、以前当ホームに入居していた家族が現在も運営推進会議に参加されたり、会議以外にも新聞紙(汚物やごみを包む用)やジュースの差し入れもある点等、良好な関係を築けていると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「全ては利用者のために」という理念を全職員が共有し、介護サービスの基本として、サービスの提供に努めている。	利用者の終のすみかとして快適に生活して頂く為に、「おいしい食事の提供」「清潔な居住空間の提供」「一日に一度は笑ってもらう」等の理念を掲げ、理念を実践できるよう職員は協力してケアを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の春・夏の祭りや、校区小学校の学習発表会、運動会に体調の許す範囲で参加している。	自治会の祭りや小学校の運動会に参加し交流を持っている。近隣障害者施設の方も遊びに来る事もあり、入居者と会話を楽しんでいる。又、ミニデイサービスを利用する方には、退院後のリハビリ的役割として支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者9名のうち3名が同じ自治会からということからもわかるように、地域の人々の役に立っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今、抱えている施設の悩みや問題を包み隠さず報告し、外部委員の意見をいただき、そして実践し評価、そしてまた実践へとつなげている。	会議には元入居者の家族・他施設の職員・ご近所の方・地域の食事改善の女性部の方・老人会の方々等も参加されており、入居者全員の様子や事業所内の状況を報告している。議事録はお便りや請求書と共に家族へ配布・郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を利用し、他施設ではどのようにしているかを聞くなど、パートナーだと思っている。	運営推進会議に参加する市職員を通じて他の施設の現状について意見を聞く機会を設け、地域の方や民生委員の協力を得ながら、よりよい介護ができるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまで身体拘束をするような事態はなかったが、壁に身体拘束規定を貼り、身体拘束をする場合はそれに合致しているかを第一に考えるようにしている。	身体拘束のマニュアルを玄関に掲示し、全職員が身体拘束をしないケアを実践できるよう取り組んでいる。家族の了承を得てベッド下や居室ドアにセンサーを使用し、呼び出し音を変える事で誰のセンサーが鳴っているか分かる工夫を施し、転倒防止等の安全配慮に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加し、「聞こえない振りをして無視する」ことさえ虐待にあたると理解して、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の内1名が成年後見人制度を利用しており、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は十分な説明を行い、理解・納得を図るのは当然のことである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、必ず利用者及び利用者家族に参加してもらい、意見があれば運営に反映させそして評価するようにしている。また、面会時をとらえ意見・要望を聞いている。	面会時や運営推進会議の時に入居者家族が持つ不安や相談を聞き、家族が安心できるようにとの想いで対応に努めている。家族がご飯茶碗を陶器から軽いプラスチックの茶碗に交換され、利用者が食事をしやすくなったケースもあり、随時家族意見をケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや職員会議を利用して、機会を設け、可能な限り反映させている。	毎日の申し送りや職員会議を活用し、意見を聞く機会を設けている。ヒヤリハット事例を基に、呼び出しコールが多い入居者には職員が見守りをしやすいうように部屋を替える等、臨機応変に職員意見を反映されている。また、季節毎の飾り付けも職員のアイデアを元に入居者と一緒に作成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	企業の代表者の仕事とは、そのようなことが主と考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は施設の宝であり、職員の質が施設の質という観点から研修・トレーニングには全力を挙げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には外部委員として、他施設からの参加を必ず依頼しており、同業者との交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家を離れ、これまでとは全く違う環境の施設で過ごすことになるのであるから、当然のことである。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで一緒に過ごしてきた家族が離ればなれになる不安は、他人には想像を絶するものである。家族の要望に耳を傾けることは言うまでもない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービスで対応しており、他のサービスは考えていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	潜在能力の維持、向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設だけでは支援できない部分も多く、そういったケースは家族にお願いし、ともに力を合わせて本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブやピクニックを利用して支援に努めている。	あらかじめ計画しているドライブやピクニック以外にも、気候が良い日には随時外出支援を実施しており、入居者に喜ばれている。また、近隣に住む方の訪問も毎週あり、馴染みの方と利用者が会話を楽しむ場所としても機能している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	3時のおやつの時にカラオケを通じて、入居者全員が一体となるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所された方の家族を、元家族として推進会議に参加してもらうなど、これまでの関係は大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランには思いや希望が記載されているので、プランに沿って支援している。	入居者の生活状況が申し送り時やミーティング時に情報交換され、その人の思い・意向に沿ったケアが実施できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に把握しており、それをケアプランを立てる時の参考としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで細かい報告があり、職員全員が入居者の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に全員が意見を出し合って介護計画を作成している。	担当職員が日々の気づきや様子を個人記録につけ、全職員が評価し意見を出し合って、ケアマネジャーが作成している。入居者がどの程度できるのか把握し、またできる事は入居者に出来るだけやってもらい残存能力を活かせる様、介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で気づきや記録に差があり、活かしているとは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ニーズは日々変化するものである」という観点に立ち、柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の資源以外にも、海や山といった自然を資源ととらえ、ドライブ・ピクニック・花見などで楽しむよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者がこれまで築いてきたかかりつけ医との信頼関係を、施設は最大限尊重している。	家族が同伴される場合は病院で待ち合わせをし共に受診支援している。看護師・医師と連携を取り、薬の調整や既往症についても相談し、指示を仰ぎながら適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。定期受診の際や病状に変化があった場合は家族へ連絡するようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在の場合でも電話で連絡を取り、指示を仰ぐようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりは十分に行っているが、入退院に関しては病院側の指示に従っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における施設の指針を説明しており、病院と連携しながら支援している。	「終のすみか」として一人で死なせたくないの思いを持ち、家族の希望に沿うよう相談しながら終末期に対応できるよう努めている。救急救命の講習を受けた職員も数名おり、「緊急時対応マニュアル」を全職員が把握し対応できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設の看護師や病院の指示を仰ぐようにしており、全員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消火や避難訓練を年2回実施しており、近所へも参加を呼び掛けている。	2年前に消防計画を見直し、防災計画を追記している。避難訓練の際、自然災害についての講和も受けているが訓練の実施には至っていない。また、避難訓練には近隣の住民の参加や、毛布を使用する訓練も経験している。台風での停電を危惧し検討中である。	今年起こった自然災害を踏まえ、自然災害に対する振り返りと、火災時における初期消火から避難するまでの一連の流れを体得できるよう訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関しては推進会議でも「スピーチロック」を議題として取り上げるなど、全職員が取り組んでいる。	ノックと声掛けをしてから入室する事、また一階トイレでは便器と洗面の間にカーテンを用意する等、プライバシーへの配慮がなされていた。「スピーチロック」についての内容を会議議題として取り上げる等、全職員が入居者を尊重した対応ができるよう、取り組んでいる。親しみを込めた方言を用い、命令口調にならないような声掛けに努めている。	「スピーチロック」についての内容を会議議題として取り上げる等、ホーム全体で人格を尊重したケアを実施する姿勢が伺えた。このホームの姿勢を更に継続させる為、第三者が聞いても不快にならないような言葉遣いを意識した接遇マナーの更なる向上を期待したいです。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で想いや希望を把握し、職員のほうからリードして、自己決定に導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体や職員のペースもあり、100%要望に沿うことはできないが、できるかぎり一人ひとりのペースや希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に外出時などの時に、担当の職員がアドバイスし、他の職員がそれを評価し、身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の高齢化と重度化で、一緒に準備や片づけは難しくなってきたが、おいしい食事の提供は施設のモットーとしている。	入居者全員が残存機能を生かし、自分で食事できることを目標に支援に努めている。町の「食事改善」の婦人部の方々に入居者と同じ食事を摂ってもらい意見をもらう機会を作っている。旬の食材・新鮮な食材を入居者が食べやすい状態で提供し、入居者が共に準備や片付けができるよう取組んでいる。誕生日には押し寿司とケーキが用意され楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は細かく記録しており、朝・夕の申し送りですべて報告するなど、注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に対しそれぞれの能力に応じて、三度の食後の口腔ケアの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設は「排泄はトイレで」を大前提にしており、できる限り排泄の自立に向けた支援を全職員で取り組んでいる。	「排泄はトイレで」を前提として支援に努めている。自室のポータブルで用をされた後には速やかに処理し、居室に臭いを残さないように取り組んでいる。失敗時には清拭やシャワーで対応し、また、外出先で失敗されると外出の意欲が薄れる事を理解し、十分に配慮するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の悪影響は全職員が理解しており、予防への働きかけはもちろん、最終的には下剤を使用しても解決している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設としては基本的に曜日や時間帯を決めてはいるが、利用者の体調や気分によっては曜日や時間帯をずらして支援している。	入浴は週二回、午前中であるが、入居者の状態により柔軟に対応している。浴室に設置した手摺を掴めるようドアをカーテンへと変更したり、ホームへ改装前の浴室の形状を活かし浴槽手前の広めの台に腰掛けてから入れる等、安全に入浴できるよう取り組んでいる。冬場は脱衣所にエアコンやヒーターを設置し、浴室と温度差が無いように、温度調整に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「昼間は活動、睡眠は夜」をモットーに、昼夜逆転に注意しながら、良眠のための支援に力を入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員に対し、時折薬の名前・効能・副作用のテストを実施するなど、理解を深めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	3時のおやつ時間を利用して、利用者全員が参加するカラオケ大会を催して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の外出以外にも、天候や利用者の体調を見極め、弁当持参のドライブなどを実施している。	ツツジや紅葉狩りへのドライブ・施設周りの桜見物へ行っている。気候が良ければ、当日ホームで弁当を用意し、外出可能な入居者が出かける事もある。また、職員と共に散歩や買い物に行ったり、病院の帰りにも買い物やドライブを楽しめるよう入居者の希望に沿うよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材購入時に利用者も同行してもらい、利用者が買いたいものがあれば相談にのってアドバイスするなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は長距離であっても無料で使用してもらっているが、手紙を書くというものはほとんどない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁には、さくら・紫陽花・紅葉・おひな様・こいのぼり・七夕様・紅葉・サンタさん等職員手作りの創作物が季節ごとに掲示され、季節感が演出され、また、玄関ロビーには生花を生けてうるおいに心掛けている。	季節毎の飾り付けや、玄関に職員が用意した鉢植えは入居者の目を楽しませている。実物の枝に入居者が紙で作った桜の花を付けた飾りは、独特の工夫が窺えた。また、2階を利用される入居者の為に、階段には電動の昇降機の設置があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が利用して集まる食堂兼居間以外に、もう一カ所ロビーを設けて、ソファ・テレビを配置し、リラックスできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「清潔、快適な生活空間の提供」を施設のモットーとしており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	以前ペンションであった為、居室の広さは各々違うが、入居者の馴染みの筆筒・テーブル・テレビ・仏壇や遺影の持ち込みがあり個性ある居室となっている。職員は午前中に空気の入替えと掃除を、月に1～2回はローテーションで大掃除を実施し、入居者が快適に過ごせるよう取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレが分からなくなる利用者には、廊下や壁に矢印で方向を示し、入り口には名前を書いて、自立の支援を行っている。		